

## まえがき

『ICU日本語教育センター紀要』9号をお届けします。内容は、現在日本語教育課程と共同で取り組んでいる中級教材の開発に関する中間報告、中級の教育に関する論文、基礎的研究の論文、タイの中等教育における日本語ボランティアについての論考、教師のスピーチスタイルに関する論文、その他本センターと教員の研究活動報告などです。論文の掲載については、紀要ではめずらしいと思いますが、査読が行われています。

本センターも設立されてから9年経ちました。この間、一貫して実施してきた教育活動は、「夏期日本語教育」です。毎年、7月から8月にかけての6週間、世界各地20か国以上から、120～150名の受講者があり、教師も20名以上、ICUの専任・非常勤教員と学外からの講師とで授業を担当しています。受講者の数は、円高など経済情勢を反映して多少の変化はありますが、一般に言われている日本語学習者の減少傾向は、このプログラムに関してはほとんど影響を及ぼしていません。この夏期日本語教育については、毎年刊行されている『夏期日本語教育論集』に詳しい報告が載っています。

センターの研究活動としては、各教員が専門分野の研究を行うほか、本学の日本語教育課程と共同で開く研究会、同じく共同の教材開発、教授法研究など行っています。

そのほか、国際性を高める一助として、また日本人学生の減少という社会的問題に対処すべく、留学生の増加のための努力もしています。例えば、海外における留学制度推進のワークショップへの参加や、本学教員や、卒業生、留学経験者を通しての広報活動などがあります。

本センターの課題としては、「センター規則」を改訂して、非常勤研究員を迎えられるようにすることです。これによって、研究活動や教育活動の一層の活性化が期待できます。その他世界の日本語教育への貢献について、センター所員の間で活発な議論が展開されています。次号に、その成果がいくぶんなりとも発表できることを願っています。

2000年3月31日

日本語教育研究センター長

稲垣 滋子